

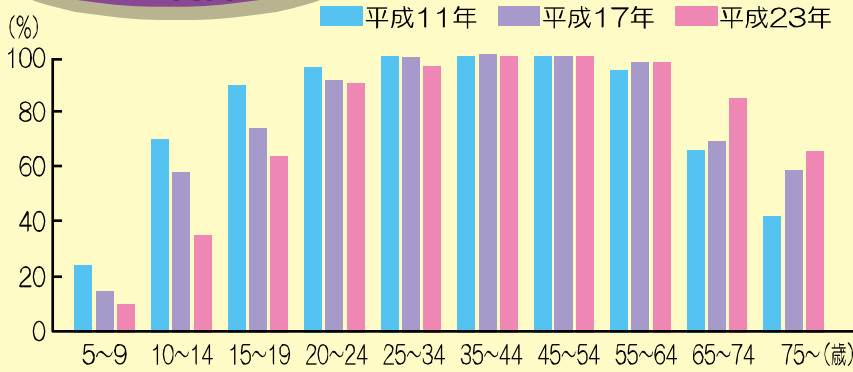


歯 はなし の はなし

“55歳以上”の「大人のむし歯」が増えている！

「むし歯」は年齢を問わず発症するものですが、現代は特に55歳以上の方の「大人のむし歯」が増えていることがわかっています。

むし歯を持っている人の割合



近年は55歳以上の方でも残っている歯が多いため、相対的にむし歯の本数も増えているといった傾向になっています。それでは、『55歳以上の人たちに多いむし歯』を以下でご紹介させていただきます。

左は「厚生労働省が6年ごとに行っている調査」をグラフにしたものですが、平成11年、平成17年、平成23年において「むし歯（治療済みの歯を持つ人も含む）」の割合を比較してみると、「5~19歳」ではむし歯を持つ人の割合が減っているのに対し、働き盛りの「35~54歳」では100%近い人がむし歯（治療済も含む）を持っていて、その割合にはほとんど変化がありませんでした。それに比べ「55歳以降」では、むし歯を持つ人が年々増えていることがわかっています。



銀歯や差し歯などの“被せ物の境目”にできるむし歯

歯には毎日“噛む力”が強くなり加わります。すると、治療で被せた銀歯や差し歯が割れてしまったり、歯との間にわずかな隙間ができたりしてしまいます。その隙間にむし歯菌が侵入すると、その内側でむし歯が進行してしまいます。治療で被せ物が施されると、なかなかその内側の変化には気づきません。治療済みの歯が再びむし歯になってしまった場合、気づいた時にはかなり奥深くまで進行していることもあります。

“唾液の分泌量が減る”ことでできるむし歯

高齢になると唾液の分泌量が減り、お口の中の自浄作用が悪くなるため、お口の中にむし歯菌が住みやすい環境になってしまいます。唾液量が減ってしまうのは、「加齢による唾液腺の機能低下」や「お茶を飲むことが増える」などが挙げられています。



“露出した歯の根元”にできるむし歯

歯の表面は「硬いエナメル質」で覆われていて、むし歯になりにくくなっていますが、歯根は「柔らかいセメント質や象牙質」できているため、歯ぐき下がって歯根が露出すると、そこにむし歯菌が付着してむし歯ができてしまいます。このような歯根のむし歯は高齢者に多く見られます。歯ぐき下がる原因としては、「加齢」「歯周病」「歯ブラシでの強いブラッシング」などが挙げられます。

「大人のむし歯」は新たに起こるものよりも、“以前治療した歯に再び起こるもの”に注意が必要です。こういったむし歯に早く気づくためには、『歯科定期検診』を受けることが大切です。歯科医院ではこのようなむし歯でも“早期発見”することができますよ。

